

つては費用対効果分析の実勢が導入用県となる。このようなことをふまえれば、養豚集団（農事組合法人など）の事務および資産管理体制が確実であることが必要であり、養豚集團自らが借り入れや有償貸与などの対応を行う必要があるとしている。

衛生および環境資材（いわゆる消耗品類）に対する助成の考え方については、近年の養豚業に係る事故率増加や環境問題への関心の高まりを踏まえ、本事業では衛生資材（ワクチンなど）や消臭資材の購入についても事業対象としている。一方、本事業は養豚の生産性向上を図り、強固な生産基盤の確立を目的としていることを踏まえ、継続的な生産性向上に資する器具・機材等の整備を優先しております。このようなことから衛生資材および消臭資材の購入については、緊急的な対策と位置付けており、「いわゆる消耗品類」の今年度の購入に当たっては本事業の要望状況を踏まえつつ、予算の配分について引き続き検討していくとしている。

同事業にかかる補助対象器具・機材等の例としては補助対象として以下の器具・機材を想定しているが、その他にも事業目的に合致するよう

な機材などの導入も可能となつている。なお、畜舎などの施設整備や恒久的な資材などは事業対象としないとしている。

〈補助対象器具・機材等の例〉

舍など

(2) 繁殖性向上対策

人工授精用機器整備、妊娠鑑定機

仕分けを明確化するため、以下の事業の補助対象については補助対象としない。

（3）労働生産性等の向上対策

自動給餌機、自動給餌システム、簡易豚舎など

1 地域養豚振興促進

(1) 未利用資源活用推進

リキッドフィーディング機材、チ

ヨッパー、飼料攪拌機、一般成分

分析、生産管理資材、生産管理ソ

フトなど

(2) 新生産飼養方式実証推進

個体識別システム及び付帯機器、

オートソートイングシステム、換

気扇、細霧機器、豚舎改造、生産

管理ソフト、自動採精器、人工採

精用機器（検査用器材、消耗品等）

(3) 豚改良体制再編整備推進

能力検定用機材（豚衡機等）、肉質

及び遺伝子解析費、人工授精用精

液や優良種豚の導入

(4) 銘柄化確立推進

銘柄化のための器具・資材の導入

（給餌機、優良種豚等）販促活動

2 豻豚生産性向上対策

(1) 事故率低減対策

衛生資材（死亡保管庫、衛生検査、

消毒薬等）、抗体検査、高圧洗浄機、

保温マット、動力噴霧器、簡易豚

消費者交流会を開催

「消費者と animal welfare ナイト」

TOKYO X Association（植村光一郎会長）は5月11日、東京都港区・東京プリンスホテルにおいて、消費者交流会を開催。消費者ならびにTOKYO X 生産者の方、農業関係者、行政関係者らが多数参加した。

今回はOIE（旧称国際獣疫事務局）の世界家畜福祉ガイドライン成間近であり、日本政府も「アニマ

なお、同事業による器具・機材の整備などについては、類似事業との

仕分けを明確化するため、以下の事

業の補助対象については補助対象としない。

（1）飼料用米導入定着化緊急対策事業

（飼料用米の利活用に係る器具・機材などは本事業の補助対象外）

（2）家畜生産農場清浄化支援対策事業

（糞便発生流行防止支援対策に係るワクチン接種を推進（オーエスキー）、伝染性胃腸炎、豚流行性下痢症に係るワクチンおよびそれらを含む混含有ワクチンについては補助対象外）

（3）水質汚濁対策

（水質検査料、簡易検査機器及び試薬）

（4）臭氣軽減対策

（臭氣検査料、簡易検査機器及び試薬）

（5）薬臭氣低減資材の購入

（薬臭氣低減資材の購入）

（6）肥料成分分析料（簡易検査機器）

（肥料成分分析料、簡易検査機器）

（7）疾病発生流行防止支援対策に係るワクチン接種を推進（オーエスキー）、伝染性胃腸炎、豚流行性下痢症に係るワクチンおよびそれらを含む混含有ワクチンについては補助対象外）

ルウェルフェニア飼養管理指針」を決定・公表の準備に入っていることを踏まえ、TOKYO X Associationの10周年記念式典の一部として「食とanimal welfare、そして日本の農業」をテーマにパネルディスカッションが行われた。なお、TOKYO X Association および Animal welfare を提唱して12年目に入るが、Safety,Bi-



左から松木洋一氏、植村光一郎会長、服部幸應氏

otic、Animal welfare, Quality の 四つの理念を掲げ、その頭文字を取り「東京S a B A Q 牧場」(トウキヨウサバクボクジヨウ)というバーチャル牧場を創り、消費者に参加してもらいたいながら一緒に銘柄豚として育ててもらう試みも行っている。

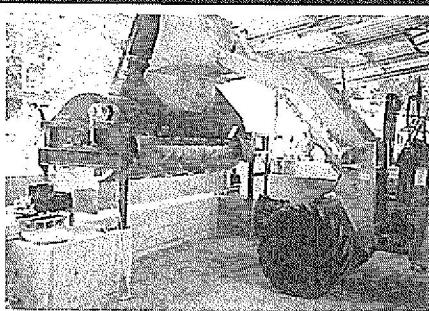
パネラーには、服部幸應氏(HA TTO R I 食育クラブ会長)と松木洋一氏(日本獣医生命科学大学名誉教授)、植村会長を迎えて、服部氏は消費者側、松木氏は生産者側の立場から、食育や Animal welfare についての考え方や現状、日本の食生活の

業界注目！食品廃棄物利用で「生き残る」畜産経営を！

生ゴミ、残飯などの食品廃棄物をエサに 【初心者、脱サラ、高齢者、障害者の方、大歓迎!!】
豚、乳牛、肉牛、養鶏でも成績を上げている方、多数

特
許

菌体飼料製造機



残飯、鳥アラ、鶏ガラ、死亡鶏、豆腐粕、あんこ粕、えのき粕、オガクズ、モミガラ、葉子屑、パン生地、うどん屑、青草、野菜屑などの未利用資源を即座に粉砕・攪拌・乾燥し発酵飼料化、又肥料化。パン、おにぎり、葉子のビニール包装のまま投入。分離して出る。

飼料発酵菌

ミノラーゼ

ミノラーゼは、各種酵母を培養、濃縮した活性菌で、その酵素は、強力で飼料の糖化、アミノ酸化を促進し、消化吸収、嗜好性をたかめます。発酵物は酸性で有害菌の増殖を阻止し、病気がなく、貧の悪臭がなくなります。この飼料は、乳酸発酵、アルコール発酵をするので、家畜が少し酔いながら健康に太ると評判です。

◆書籍「菌体飼料の理論と実際」のご紹介◆

菌体飼料を利用するとなぜ健康か？菌体飼料の作り方、配合の仕方など、畜業寸前の畜産家を見事立て直した
多数の実際例等を収録。千円切手6枚を下記営業所までご送付ください。
(A4判/350ページ)

カタログ(無料)請求、見学ご希望は下記まで

【製造・販売元】

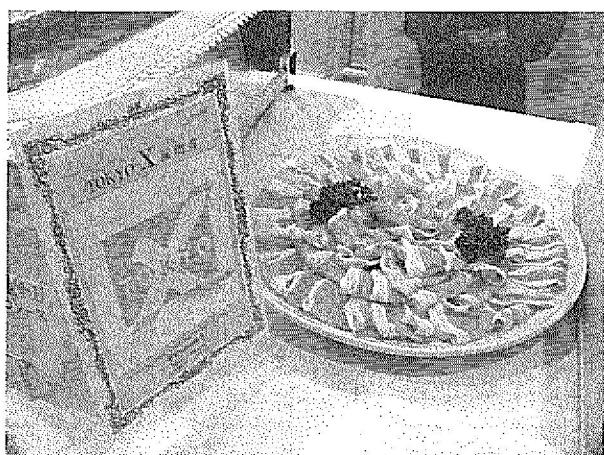
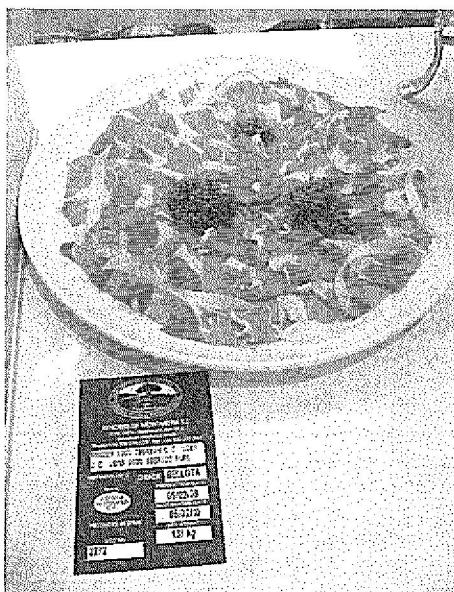
みのり産業有限会社

営業所・工場:〒311-2111 茨城県鉾田市上沢1062

☎ 0291-39-6888 FAX.0291-39-8541

苗 研 究 所:〒277-0863 千葉県柏市豊四季514-14 ☎ 0471-74-4705

ホームページアドレス <http://www.h2.dion.ne.jp/~minoraze>



会場で人気の高かった料理の一つ、TOKYO Xとイベリコ豚のしゃぶしゃぶ

て、殺して食べるまでの間は健康に生かして育っていく必要があるだろう。命を健康的に育てるということが一番重要であり、私たちが気付かなければならぬ部分であるが、健康に育てるには難しい」と述べ、家畜は何かということを大前提として認識する必要性を挙げ、家畜がストレスを感じて免疫力を弱めてしまわないようにしていきることが大切であり、それぞの家畜が欲している行動要求に添つて飼養することの重要性などを説明した。

パネルディスカッション終了後には、TOKYO Xを用いた豚肉料理の試食パーティーが催され、イベリコ豚との食べ比べが行われ、盛会のまま終了した。

農林水産省消費・安全局動物衛生課は4月28日、(社)日本養豚協会(志澤勝会長)ならびに日本養豚生産者協議会役員の要請により、養豚生産者を対象とした「新型インフルエンザに関するQ&A(消費者、隣人に聞かれたら)」を作成した。内容は以下のとおり。

Q 豚インフルエンザはどのような病気ですか。
A A型のインフルエンザウイルスで起きた病気で、豚が感染すると発熱、せき、鼻水などの症状を示しますが、一過性で通常1週間ほどで自然治癒します。このため、豚が感染しても高病原性鶏インフルエンザのような処分を行う必要はありません。

Q 国内でも発生していますか。
A 国内でも時々感染した豚は見つかりますが、たくさんの豚が死んだり、感染が広がっていくような大きな問題にはなったことはありません。

A これまでも豚肉を食べてインフルエンザに感染したという報告はありません。豚肉はと畜工程において、高圧洗浄や次亜塩素ナトリウムなどによる消毒で殺菌されています。食品安全委員会からも、豚肉は安全であるとの見解が示されています。さらに豚肉は生で食べることはなく、

「新型インフルエンザに関するQ&A」作成 消費者への啓蒙を視野に入れて